

## カラカス日本人学校の体育館に教室にグラウンドに、子どもたちや親子の歓声が響き渡りました！ 日本人学校が大勢の方々の来訪を喜んでいるようでした！

■ 第2回フリー参観・体験入学・親子スポーツを開催しました！ ■



去る 10 月 15 日 (土) に本年度 2 回目のフリー参観・体験入学・親子スポーツを開催しました。体験入学者 3 名を迎え、朝の「読み聞かせ・紙芝居」から始まり、子どもたちの活動満載、意欲満々の授業を見ていただき、午後は「並びっこティーボール」や「親子グラウンドゴルフ」に汗を流しました。1 日中、学校中に子どもたちや親子の歓声が広がり、「日本人学校が喜んでいる！」ことを実感した 1 日でした。

### カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その133)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 28

世界の中でも早い時期に、補習授業校が出来たカラカスでした。そしてその 7 年後、全日制日本人学校を設立しようという気運が一気に高まってきたのでした。それは、昭和 50 年 (1975) のことでした。

■学校設立準備委員会が発足■ 昭和 50 年頃になると輸入の増加も著しくなり、日本からの駐在員も増えてきました。そうした中、子弟の教育問題に頭を痛める人々の中から、「全日制日本人学校」を創ろうとの気運が盛り上がってきたのも、自然の流れであった。日本語で学び、日本語で遊び、日本語で自由に自分の意志を伝えさせてやりたい、との親の願いは急速に設立準備の気運を盛り上げていった。「二水会」の席上、高谷氏を委員長とする設立準備委員会が暫定的ではあったが発足し、大使館への働きかけ、大使を通しての日本への働きかけ、協力の陳情が行われた。これに帰国していった人たちの支援も加わった。その結果、昭和 50 年 1 月、大使より許可内定の通知がもたらされ、具体的準備への段階となった。4 月 1 日北原寛氏 (三菱商事) を委員長とする、カラカス日本人学校設立準備委員会が正式に設置され、9 月 1 日には、初代理事長 杉村栄一氏 (日商岩井) を中心とした日本人学校理事会へと発展し、開校へ向けて具体的作業が開始されたのである。

■そして開校へ■ 本来の業務を終えた後での、深夜に及び検討、討議も、幾度となく繰り返された。子どもたちがのびのびと勉強し、遊びまわれる場所はないかと 20 数力所の物件を見てまわった。こうした人目につかないところでの万全の準備の末、昭和 50 年 (1975) 10 月 15 日に仮開校式が行われた。そして、11 月 1 日、臨時校長に杉原真一大使を頂き、記念すべきカラカス日本人学校の創立を迎えるのである。 つづく